



Fu-Garden

風景を、思想にする

Scenery into Thought



庭は、買うものではなく、 編むものである。

山梨の厳しい冬を越え、柔らかな春の光に芽吹く雑木。
歳月を重ねるほどに色気を増す、名工が打った石積み。

私たちが創り出すのは、単なる外構や造園ではありません。
そこに住まう人の人生と、その土地の記憶が共鳴し合う
「風景」です。

10年後、もっと好きになる景色を。

家を建てた時がピークではなく、時とともに美しく育ち、
家族の記憶に溶け込んでいく庭。

【Fu-Garden】は、**風景の胎動**から、その後の成長まで、あなたと共に歩み続けるパートナーでありたいと願っています。





意匠の番人として。 The Guardian of Design

【Fu-Garden】は、自社で施工部隊を持ちません。それは、特定の工法や在庫に縛られることなく、あなたの理想にとって「何が最善か」を、常に中立な立場で見極めるためです。施主様の想いを形にする「意匠家(プロデューサー)」であり、その美学を現場で守り抜く「監理者」です。

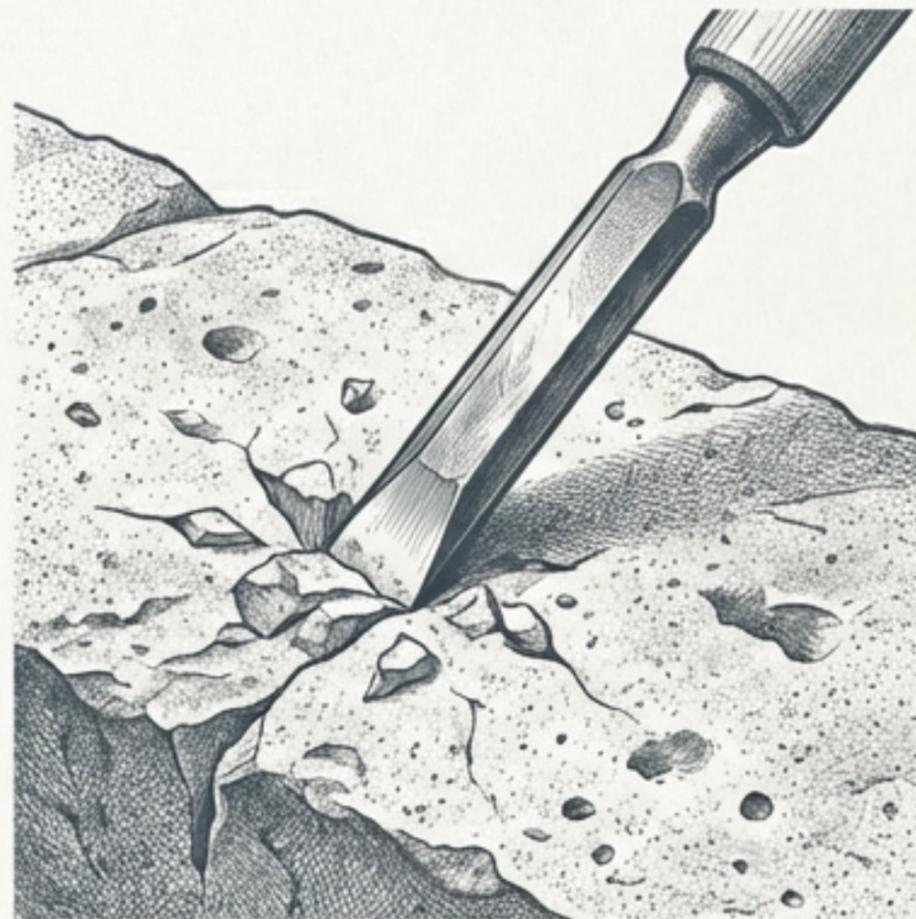
職人を、キュレートする。

一つの庭には、複数の専門領域（木を診る目、石を据える腕、土を育む知恵）が存在します。

私たちのネットワークから、そのプロジェクトのためだけに、魂を削って仕事をする「職人」たちをキャストイングします。



木を診る目 (Eyes for Wood)



石を据える腕 (Arm for Stone)



土を育む知恵 (Wisdom for Soil)

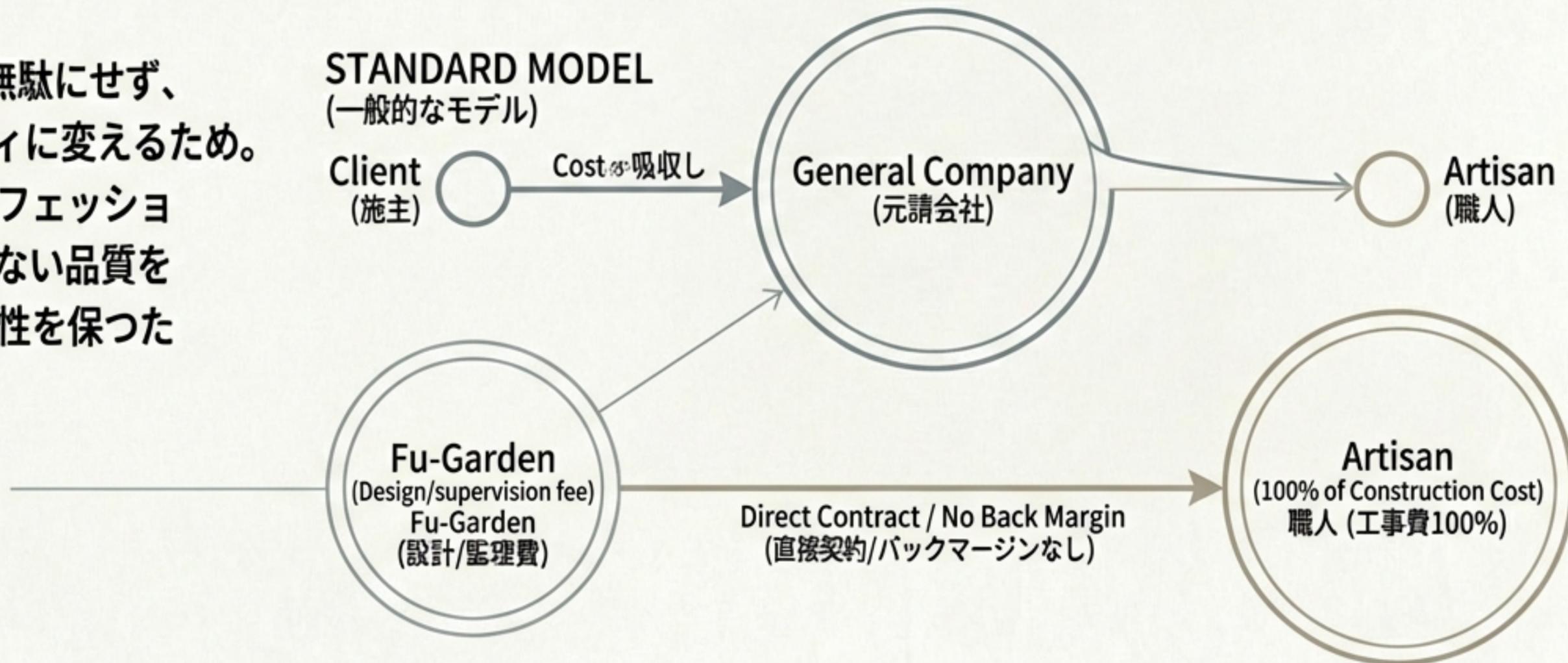
透明という、誠実。

100% Quality Investment

私たちは、施工費からのバックマーゲンを一切受け取りません。
職人と施主様が直接契約を結ぶ「完全分離型」の仕組みを採用しています。

あなたの投資を1円も無駄にせず、
100%現場のクオリティに変えるため。
そして、私たちがプロフェッショナルとして、妥協のない品質を
職人に要求できる独立性を保つためです。

FU-GARDEN MODEL (Fu-Gardenモデル)



目に見えない「価値」を、目に見える「風景」へと翻訳する。

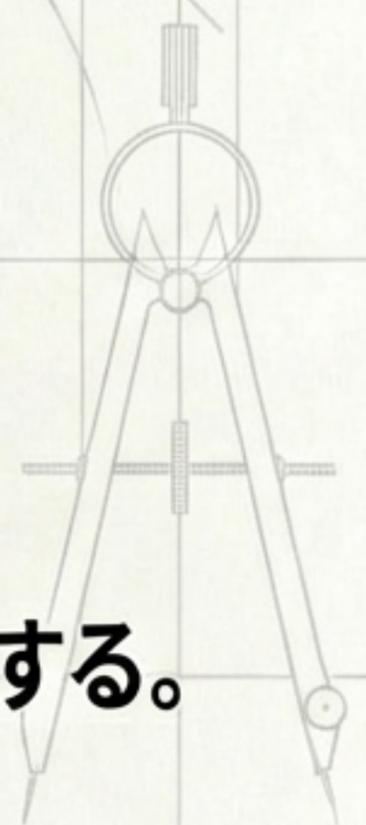
庭園設計：施主の人生という文脈を、「庭」という風景にする。

文化交流：伝統や歴史という文脈を、「体験」という風景にする。

広告設計：企業の志という文脈を、「デジタル」という風景にする。

企画設計：課題と可能性という文脈を、「仕組み」という風景にする。

環境設計：土地の記憶という文脈を、「再生された自然」という風景にする。





庭園設計と文化交流

庭園設計：施主の人生という文脈を読み解き、生活に溶け込む風景を構築します。



文化交流：神社仏閣の儀式や伝統文化

への深い造詣を背景に、歴史的な文脈を現代の体験へと昇華させます。

ビジネスと環境のための設計



広告・企画設計：

企業の志をデジタル空間（HPなど）で表現し、課題解決のための仕組みそのものを「風景」としてデザインします。

環境設計：

土地の記憶を尊重し、自然再生を通じた持続可能な環境づくりを行います。

代表プロフィール

本間 吉隆

Yoshitaka Honma

Fu-Garden CEO / 空間デザイナー・コンサルタント

山梨県甲府市を拠点に、庭園や建築空間のディレクションを手がける。

「伝統の継承と現代の解釈」をテーマに、中立的なエージェント・モデルを確立。

現場の職人を「名工」として敬い、自立して輝くプラットフォームを展開。

England, UK. Nottingham Trent University
Brackenhurst (園芸&ガーデンデザイン専攻)

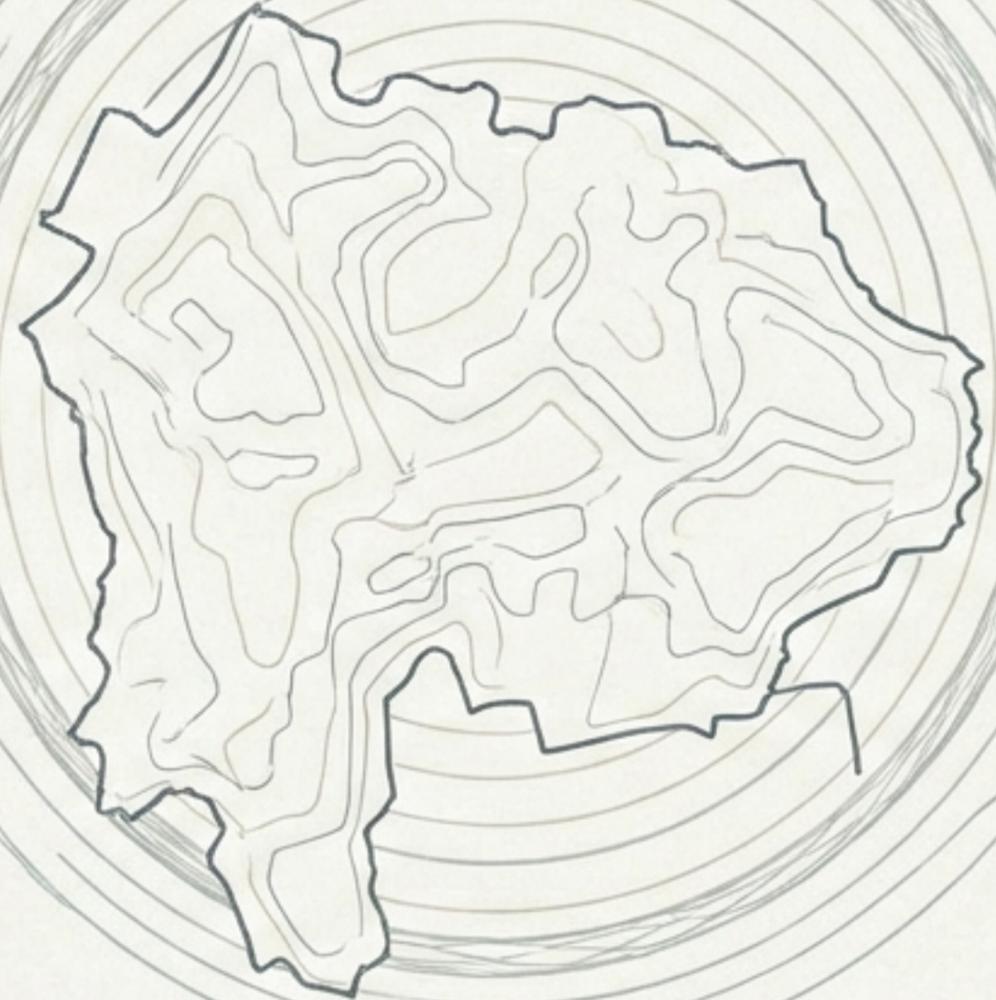
2004年 国際園芸博覧会 (浜名湖花博)
名誉賞及び各種受賞

受賞作品：【Present / 現在・過去・未来】

山梨から、新しい日本の風景を。

私たちは山梨の豊かな自然と、古くから伝わる伝統に深く敬意を払っています。

この地で培った美意識を、全国、そして世界へと発信し、次世代に残すべき風景を一つずつ増やしていくことが私たちの使命です。



企業情報

会社名:

合同会社 風雅伝

CEO:

本間 吉隆

設立:

令和5年1月4日

住所:

〒400-0056 山梨県甲府市堀之内町840-1

資格:

二級建築士 (1名)

HP:

<https://fugaden.co.jp/>

風景に、命を。人生に、風雅を。

「土に触れ、緑を愛でることは、自分自身を調えること。」

「夕暮れの影の美しさを、一生の宝物にする。」

